

9月に開催するイベント・説明会情報をお届けします。どちらも市内で活躍している方や事業所の担当者から直接お話を聞く絶好の機会です。皆様のご参加をお待ちしています。



9/15 (金)  
18:30~20:00

## みんなの経験共有会vol.14 ～企業で「地域貢献」担当をしてみた!～

[会場] @オンライン

最近、企業が社会貢献活動として様々な活動を地域で行っています。今回は町田市内で精力的に地域貢献活動を実施している企業の担当者をゲストとしてお招きします。どんな想いで活動しているか、担当してどんな発見があったか、今後どのような地域活動団体と連携したいかなどお話しいただきます。企業と連携しイベントや事業を実施してみたい、地域活動に対する企業の想いや今後の展開を聞いてみたい、そんな方にぴったりの回です。オンライン開催なのでお気軽にご参加ください。



▲前回vol.13の登壇者の皆さん。毎回、とびっきり具体的でユニークなお話をお届けしています。

当日のゲスト

ソフトバンク(株)

関東甲信越地域CSR部  
五條真樹さん

花王グループ

カスタマーマーケティング(株)

社会コミュニケーション部門  
首都圏地区担当 北村司さん

NPO法人

アスレチッククラブ町田  
(町田ゼルビアスポーツクラブ)

事務局長  
渡邊さや香さん

9/19 (火)  
14:00~16:00

## 2024年度日本郵便年賀寄付金 配分説明会・助成金プチ講座

[会場] 町田市生涯学習センター学習室1・2



寄付金付年賀はがき等の販売により集まった寄付金を配分する本事業は、対象となる団体が所定の法人格を有していることが対象要件ですが、対象となる事業分野が広いので、多くの事業が対象となるのが特徴です。当日は、日本郵便株式会社年賀寄付金事務局のご担当者にお越しいただき、助成事業の説明や個別相談を行います。またサポートオフィスより「助成金とは」をテーマとしたプチ講座やこれからの助成金応募に活かせるワークショップも実施します。日本郵便年賀寄付金配分に申請予定の方はもちろん、すぐに応募を考えていない方や助成金について知りたい・助成金の申請書の書き方のコツが知りたいという方にもおすすめです。

当日のプログラム

- 14:00 プチ講座  
助成金とは?
- 14:20 説明  
日本郵便年賀寄付金配分
- 14:40 質疑応答
- 14:50 ワークショップ  
助成金に応募するための  
企画立案ははじめの一歩
- 15:20 個別応募相談  
(ご希望者のみ)

こんな方に  
おすすめです

- ✓ 日本郵便年賀寄付金配分への応募を検討している方
- ✓ 助成金について知りたい、助成金の申請書の書き方のコツが知りたい方

### Now

わたし×困りごと＝  
地域ではじめる小さなしごとづくりセミナーが開講しました

### Topics

メディアに届くプレスリリース作り、  
はじめの一歩

### Information

9月に開催する  
イベント・説明会情報

参加者の皆さんと講師の井東敬子さん(前列左から2番目)。参加者の皆さん同士のコミュニティづくりにも注力している本セミナー。切磋琢磨しながら、素敵な「ナリワイ」がここから誕生しそうです。



## Now

近況報告

わたし×困りごと＝

地域ではじめる小さなしごとづくりセミナーが開講しました

7月6日(木)市役所2階市民協働おうえんルームにて、「わたし×困りごと＝地域ではじめる小さなしごとづくりセミナー」を開催しました。講師はこれまでに全国で100名近くの「ナリワイ起業家」を生み出してきたわたしごとJAPAN共同代表/鶴岡ナリワイプロジェクト代表の井東敬子さん。本セミナーは、講義とワークショップ、参加者同士の対話を通じて「自分の好きなこと」と「地域の資源・地域のささいな困りごと」を掛けあわせ、小さな仕事(＝ナリワイ)づくりを目指します。全4回の講座の後に、実践発表会を行う連続講座で、発表会は12月2日(土)に開催する町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」の中で実施することになっています。

本セミナーの開催にあたり、サポートオフィスとして最も大切にしているのは「わたし×地域の小さな困りごと」の視点です。地域課題を自分事と捉えて楽しく取り組んでいくスタイルの一つとして、参加者の皆さんのチャレンジを応援していきたいと思えます。

### みんなで取り組んだワーク (一部抜粋)

自分の〈好き〉という軸をとことん掘り下げながら、身の周りの困りごととの接点を探る各種のワークに取り組みました。ポイントは「意識化」。文字や言葉として表現することで、「好きなこと×困りごと」へのアンテナが立ち、取り組みへのヒントが生まれます。

#### Case1 好きなモノ・コト発見ワーク

自分の好きなこと、頼まれごとに対して「すごい!」と言われてもらえることを書き出す。ポイントは「質より量!」と「できるかどうか、ではなく、好きかどうか」。

#### Case2 ささいな困りごと・悩み発見ワーク

「冷え性」「洗濯物のにおいがくさい」「現場での活動は楽しいが、事務作業が面倒くさい」など、自分や家族など身の回りにある困りごとを書き出すことが大切。

当日の詳しいレポートはこちらから



同じような取り組みをしている  
全国の実践者のプラットフォーム



https://watashigotojapan.com/

◀ワークショップの発表に対してのフィードバックタイムの様子。互いの意見に新しい視点や気づき生まれます。

### Voice 参加者の声

- 講師の井東さんのお人柄と御功績にとても惹かれく私の求めていたのはコレだ!こういう世界!とすごくワクワクしました。
- 一人で漠然と考えているよりも、他者の考えを聞き、自分を検証していくことで、現実一步近づけたように思いました。
- 現在ボランティア活動をしているが、今後の在り方を考える過渡期。講座を通してじっくりと考えていきたいです。

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

042-785-4871 月～金 午前9時から午後6時  
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

● JR横濱線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)

● お車で越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください



公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp





# メディアに届く プレスリリース作り、 はじめの一步

地域活動団体の皆さんから「イベントを開催する時、プレスリリースを出した方がいいのでしょうか?」というお問い合わせをいただく機会が増えてきました。プレスリリースとは、企業や団体の新商品、サービス、社会的活動、人事情報など、あらゆる自組織の情報を報道機関に向けて発表する文書であり、広報活動の一手段です。自分たちの取り組みを広く知ってもらい、メディアへの掲載、ひいては一般の方からの問い合わせにつなげる広報活動をするためには、大きな組織でなくてもプレスリリースを作り報道機関に投げかけていくことは効果的です。本特集では、プレスリリースの大まかな構成とその作り方のポイントをご紹介します。サポートオフィスではプレスリリース作成のサポートも行っています。お気軽にご相談ください。

サポートオフィスのスタッフが参加した株式会社PR TIMES主催のプレスリリース講座で印象的だった情報整理方法をご紹介します!

## プレスリリースの基本構成と作成の5つのポイント

このプレスリリースは、サポートオフィスが作成し実際にメディアへ配信をしたリリースの一部抜粋版です。コロナ下ではじめてオンライン開催をすることになった講座の情報をまとめました。このプレスリリースを事例に、5つの制作のポイントをご紹介します。

### 1 タイトル+サブタイトル

毎日膨大な情報が届くメディアにとって、全てのプレスリリースを最初から最後まで読むことは不可能です。新聞と同様に、魅力的なタイトルほど報道機関の記者の目にとまります。初めてその情報を知る人に、情報の価値と結論が正しく届くように情報整理をした上で、読みたくなるタイトルを作りましょう。

**HINT** 右ページで紹介している「メディアフック」の視点を取り入れて言葉を整理していくと、魅力的なタイトルづくりのコツがつかめます!

### 3 画像

スマートフォンの普及により、あらゆる情報は画像と共に紹介されるようになりました。画像のないプレスリリースは記事化しにくいので、画像は必ず入れましょう。リリースする内容がよくわかるような鮮明な画像を選ぶことがポイントです。

### 5 連絡先

団体概要や問合せ先の電話番号やメールアドレスはもちろん、プレスリリースの窓口となる担当者名も明記するようにしましょう。担当者名があることで、記者も問合せがしやすくなります。

**PRESS RELEASE** 2020年5月7日

**サポートオフィス初のオンライン開催が決定!**

**町田の困りごとに取り組む団体のための事業計画づくり講座「まち“だ”づくりカレッジ」が6月25日(木)に開講**

一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィス (本部: 東京都町田市、代表理事 高橋 豊) は、6月25日(木)より、町田市内で活動するNPO団体や市民活動家に向けた事業計画を作る伴走型連続セミナー「まち“だ”づくりカレッジ」を開講することが決定しましたので、お知らせいたします。オンライン講義を通し、オンラインのやり取りをポジティブに活用できるスキル習得も目指します。



2020年1月に実施した「地域活動に関する調査」※では、市内のNPO法人、市民活動団体が「活動上で必要と感じている支援」の1位~3位に「助成金・寄付金等の資金調達」<広報・情報発信> <事業計画の策定・事業運営・組織マネジメント>を挙げました。それらの調査結果や昨年度の受講者の声も踏まえ、団体等の活動が力強く継続するためには、地域や社会の未来を見据えた骨太の事業計画作成が不可欠だと確信し、本セミナーの2期目の募集を開始しました。この講座を通じ、団体の事業レベルを高めるとともに参加団体同士の連携を深め、町田の「まちづくり」を力強く進めていきます。

**まち“だ”づくりカレッジの特徴**

1. 事業計画をA3用紙1枚にまとめる「卒論」制作を通じ、「想い」の可視化を進めます
2. 団体運営に欠かせない知識やスキルの習得と ワークショップによる気づきの学習を実施します

※ 2020年1月町田市地域活動サポートオフィスが実施した調査。194団体に返信し89団体が回答。

### 2 リード文

発信する情報の背景やその意義を300文字程度でまとめましょう。初めて読む人でも理解できるように専門用語は使わず、簡潔にまとめることがポイントです。

**HINT** 文章作成の際は、右記で紹介している「5W2H」を入れることで、読みやすく魅力的な文章が作れます!

### 4 本文

記者がプレスリリースを読みながら、掲載記事のイメージができるようにまとめます。特に実施の背景やその根拠となるデータや出典元、そして今後の展開(地域活動における社会的意義)を書きましょう。担当者の熱意のあるコメントがあると、読み手への共感も生みます。

プレスリリースができたら、最初の一步を踏み出そう!

## リリースに掲載する情報整理方法

プレスリリースのコツは、初めてその情報を知る第三者へ、しっかりと価値が届くように整理することです。まずは、発信したい内容を下記2つのフレームワーク(考え方の枠組み)で整理し、原稿をまとめていきましょう。

メディアフック	プレスリリースのタイトル作りに取り入れてみよう!
時流/季節性	季節に関連したり、時流やトレンドに絡めている
画像/映像	画作りや、インパクトのある映像を制作する
逆説/対立	定説とは真逆のことの提示や、対立構造にする
地域性	具体的な県名や地域名を用いる
話題性	既に話題になっている事柄に乗っかる
社会性/公益性	公共性が高く、社会的な文脈を取り入れる
新規性/独自性	オンリーワンor初の試みである
最上級/希少性	価値の度合いが明らかに判断できる
意外性	「まさか」「もしや」を実現してしまう

(出典 株式会社PR TIMES)

5W2H	プレスリリースの本文の情報整理におすすめ!
Who (誰が)	主語となる企業・団体
What (何を)	サービス、事業、プロジェクト、イベント、製品、組織
Where (どこで)	会場、販売エリア、URL、対象の範囲
When (いつ)	2023年●月●日(●時)
Why (どうして)	背景、目的
How (どのように)	概要、特徴(方法、手段、リアルorオンライン等)
How much (どのくらい)	金額・数量

(出典 株式会社PR TIMES)

## 町田市役所にある記者ボックスにリリースを届けてみよう

町田市役所広報課には、右記の報道機関へプレスリリースを配架できる記者ボックスがあります。配架する前に、広報課がプレスリリース内容の確認を行います。興味のある方はサポートオフィスまでご連絡ください。

- 記者ボックスで情報提供できるメディア**
- 朝日新聞 ●毎日新聞 ●読売新聞 ●日本経済新聞 ●産経新聞 ●東京新聞 ●時事通信 ●共同通信
  - 神奈川新聞 ●NHK ●MXテレビ(東京メトロポリタンテレビジョン(株)) ●イツツ・コミュニケーションズ(株)
  - 日刊工業新聞 ●武相新聞(町田タイムズ社) ●町田ジャーナル ●(株)タウンニュース ●J:COM
  - 都政新報 ●エフエムさがみ ●リビングまちだ・さがみ ●東京新聞ショッパー ●町田経済新聞 ●多摩テレビ